

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

「子どもの元気は校区の力、地域の力。育てよう地域の輪・話・和」  
子どもたちと活動を進めながら地域住民の絆がつながっていくよう  
地域、学校が連携協働できるようにする。

## 【今年度の取組紹介】

## ●作文教室

中学での学習支援寺子屋事業の一環として、今年開講しました。金曜日5時30分（部活動終了後）から約1時間、中学2年生の希望者が集まってきます。

原稿用紙の使い方・素材集めからはじまり、生活文・意見文・説明文・鑑賞文・条件作文などテーマに沿って23回すすめられていきました。

はじめ、文字を綴って文章を書くことが苦手や不得意だった生徒たちは、最終回では語彙力がつき自分の考えを文章表現できるようになりました。



## ●救急・護身術講座

奈良西警察と奈良西消防署のご協力をいただき、緊急時のAED講習と自分の身を守る護身術の講習を開催しました。



## ●柿しぶクッキー製作

二名の「しぶ柿に学ぶ事業」

柿しぶクッキーは地域の小学生・中学生が毎回公民館の料理室で作っています。

## 【今年度のまとめ】

学習支援事業として今までの「寺子屋」に今年から「作文教室」が加わりました。授業支援とともに地域の子どもの学ぶ力を支援しています。「しぶ柿に学ぶ事業」も定着してきており、今年はこの園の園児とも「柿しぶ染」体験をしました。支援事業を通し子どもと地域ボランティアとの交流が深まり学校以外でも声の掛け合う姿がみられるようになりました。

## 【来年度に向けて】

支援事業も定着してきていますが、コーディネーターやボランティアの環境の変化や高齢化などがあり、新しい人材の発掘や研修、そして支援の在り方も考えなければならないと思います。

めざす子ども像

取組目標

**人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども  
仲間と共に積極的に学び合い、自らの考えを発表し、表現できる力を  
持たせる。自主的に行動し、地域社会に貢献できる生徒を育てる。**

## 【今年度の取組紹介】

## ①キャリア教育の推進（仕事の専門家から学ぶ取組の発展）

生徒たちが成人して社会で活躍する頃は、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。人口の減少、AIの飛躍的な進化により社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。学校教育においては、社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を発揮し、よりよい社会の造り手となる資質・能力の育成が求められています。生徒たちが「学び」を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、汎用的な能力を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育成するために、今年もキャリア教育ポスターセッション学級発表会、学年発表会を実施しました。代表者2名が2月9日（土）に奈良市ポスターセッションに参加しました。



## ②世界遺産学習の推進（東大寺・興福寺境内での英語ガイド活動）

地域の方々、天理大学の協力を得て世界遺産学習英語ガイド活動(1年生)を実施しました。小学校で取り組まれている英語学習の成果を踏まえ、奈良に来ている外国の観光客の方々に奈良の良さを英語で紹介し、折り鶴のプレゼントをしました。



## 【今年度のまとめ】

地域の多彩な方々をボランティアに迎えた「二名中寺子屋」を毎週月曜日に開催しています。生徒たちが夢や希望を持ち、自らの生き方を考え、社会的に自立していくための確かな学力を身につけさせることが求められています。そのための基礎的な学力の定着が十分でない生徒が存在します。「二名中寺子屋」は、学力補充のプログラムとして、二名中生に定着しています。本年度も約40名の生徒が参加しています。本年度は、毎週木曜日に「作文教室」（二名公民館）が開設されました。2年生を中心に参加しました。また、今年は不登校支援活動「スマイリー登校プラン」を実施し、地域の方々の協力を得ました。学校と地域が一体となって、不登校という深刻な課題の克服にむけて、研修会を行いました。

## 【来年度に向けて】

来年の予算編成に伴い、地域の方々と集う音楽会事業への予算運用ができなくなりました。また、奈良県文化会館の耐震問題も発生しています。PTAとの協議の結果、受益者負担で、なら100年館での実施を予定しています。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

- ・地域の方々やゲストティーチャーの支援のもと本物を体験し、地域を愛する心、生きる力を育むとともに、自ら考え行動できる児童を育てる。
- ・読書活動等を通して、読書に親しみ、豊かな心と言語力を育てる。
- ・校内における子どもたちによる「あいさつ運動」を始め、登下校時、地域の方々と元気にあいさつを交わすことで地域との関係を深めるとともに、自尊感情やコミュニケーション能力を高める。

## 【今年度の取組紹介】

本年度は運営委員会での話し合いを充実させることができました。このことにより、本年度の事業がより充実したものになるとともに、今後の課題や改善点なども共有しやすい運営ができました。

取組の中で特筆すべきは、本年度から新たに「図書環境整備事業」を立ち上げることができたことです。図書関連の事業として、今まで取り組んできた「読み聞かせ」も継続しつつ、学校の喫緊のニーズである「学校図書館の充実」と「図書環境の整備」を地域教育協議会と



学校とが話し合っって協働することで実現することができました。青和小学校の子どもたちにとって、魅力ある図書室になるためには、蔵書の充実、そして借りたい本がすぐに見つかり、すぐに元にもどせる配置や表示が欠かせません。それを実現すべく、中央図書館の司書さんの支援を受けながら、無理なく継続できる地域教育支援活動となるようにがんばっています。目に見えてステキな図書室になっていくので、青和小学校の子どもたちは大喜びです。

## 【今年度のまとめ】

今年度も、交通ボランティアの方々による見守り活動で、子どもの安心安全、地域を愛する子どもの育成に繋がっていただきました。また、家庭科等における学習支援やゲストティーチャーを招いての体験学習、図書ボランティアの読書活動などが、子どもたちに学ぶ楽しさを体感させ、豊かな学力を育成することに繋がりました。図書環境整備という新たな事業も軌道に乗りつつあります。これまで築き上げてきたことを大切に継続させながら、学校・保護者・地域が協働してより充実した取組とすることができました。

## 【来年度に向けて】

本校の「目指す子ども像」「取組目標」をより高いレベルで具体化できるように努めます。その為に、目指すべき「地域としての学校像」を共有し、学校と地域の協働の在り方について今後も時間をかけて話し合っていきたいと考えています。



めざす子ども像

**人との出会いを通して地域で学んだことを誇れる子ども**

取組目標

**地域で育ち、地域で学び、地域とつながる二名っ子****【今年度の取組紹介】****〈地域ふれあい事業〉**

毎年恒例の2年生の町探検は、天候にも恵まれ無事実施することができました。田植えの時期で、田畑の様子を見たり、神社・公園・スーパーなどいろいろなところを見学したりしました。

あぜ道や交通量の多い道路も見守っていただき、児童は安心して活動することができました。各班で自己紹介をして、お世話になる地域方のお名前を覚え、後日お礼のお手紙を一人一人宛てに書きました。

1年生の時に「昔遊び」でお世話になった方もおられ、その方を覚えていた児童が今回の町探検でうれしそうに挨拶したことをとても喜んでくださいました。

地域ボランティアの固定化・高齢化が課題となる中、町探検の日を楽しみにしておられる方が大勢おられることは、ありがたいことです。

**〈体力向上事業〉**

「二名小学校区スポーツ協会」・「にみょうきつづくらぶ」による「歩こう会」の本年度のコースは王龍寺・杵築神社でした。秋晴れの美しい紅葉の中を歩き、参加者は校区の良さを味わいました。



(町探検)



(歩こう会)

**【今年度のまとめ】**

- 本年度は、熱中症防止対応・地震による補修工事等により中止になる取組がいくつかありましたが、人権教育推進協議会やPTAの方々の支援による花いっぱい運動・「としょぼ」さんによる読み聞かせやおはなし会・図書室の環境整備などは、例年通り実施でき、定着化しています。
- 本年度も「部団下校会」で見守り活動をしてくださっている11団体の皆様の紹介をしました。土曜参観の後、全校児童・保護者が部団ごとに整列し、児童運営委員が代表で感謝の気持ちを伝えました。たくさんの方が見守ってくださっていることの周知を広めることができました。
- 各取組の中で、地域の力が学校で生かされている場面を教職員・児童・保護者に広く知らせること、しっかりと感謝の気持ちを伝えることを意識しました。ちょっとした心遣いが自然な挨拶につながり、引いては事業の円滑な実施につながりました。

**【来年度に向けて】**

- 自然な挨拶が、地域の方と児童・教職員・保護者がともにつながるきっかけになります。どのような方がどんな場面で協力してくださっているか広く知らせる方法を工夫していこうと考えています。
- 校務分掌に地域連携担当教員を複数配置して、各取組の周知に力を入れたいです。

めざす子ども像

## 人との出会いを通して、

## 地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

様々な人との関わりを通して、子どもたちの興味・関心を湧きたてるような体験活動の実施

### 【今年度の取組紹介】

#### 〈お花を楽しもう〉

子どもたちは、保護者と一緒に「どんな入れ物に生けようかな。」と容器選びからワクワクして、『お花を楽しもう』の当日を迎えました。4歳児は、初めての生け花で最初は戸惑う子どもの姿もありましたが、ゲストティーチャーから、花の扱い方や生け方を優しく教えていただき、緊張も解れ思い思いに生け花を楽しみました。5歳児は昨年の経験から、自分から先生に話し掛けたり、分からないことを聞いたりする姿が見られ、一人一人の個性を發揮し独創的な生け花が完成しました。園内作品展に飾り、保護者や地域の方から「すごい、幼稚園の子が生けたとは思えない。上手ね。」と沢山褒めていただき、子どもたちの自信につながりました。



#### 〈絵手紙を楽しもう〉

ゲストティーチャーから「絵手紙は、絵と言葉があります。みんなの大切な人に手紙をあげようという思いを込めてかくことが大切です。」と教えていただきました。最初は筆の使い方に慣れるため、練習として○△□をかきました。最後に、自分の手と好きな言葉をかきました。手の形は、グー・チョキ・パーの中で好きな形を選び、一人一人真剣に取り組み、絵手紙を仕上げることができました。ゲストティーチャーから「とても集中して取り組みましたね。素敵な作品ができました。」と褒めていただきました。子どもたちは、自分の作品を見てとても満足した様子でした。



### 【今年度のまとめ】

地域の方々の協力を得て、様々な体験をすることができました。地域触れ合い学習会では、地域の方と東大寺大仏殿・二月堂に行き、奈良の歴史について話を聞かせていただきました。また、お茶会では日本の伝統文化に触れ、相手の事を思いやる心の大切さを教えていただきました。ふれあいデー（未就園児保育）では、年間を通して地域の方に参加していただき「子どもたちの成長の様子がとてもよく分かり嬉しいです。」という意見を聞かせていただきました。子どもたちは、地域の方々の温かい心に触れ安定し、人とのかかわりを広げていくことができました。

### 【来年度に向けて】

ふれあいデー（未就園児保育）への参加者の減少に伴い、内容の見直しを行いより充実した活動にしていきたいと思えます。また、各取組で学んだことや感動体験を日々の遊びの中に活かし、より保育を充実させていきたいと考えます。今後も地域の皆様と連携を密にしてご協力やご理解を得ながら、地域に開かれた幼稚園になるよう努めます。

めざす子ども像

人との出会いを通して、地域で学んだことを誇れる子ども

取組目標

心豊かにたくましく地域とともに生きぬく子どもの育成

## 【今年度の取組紹介】

「柿渋染め体験」では、地域の方々に、二名中学校区で取り組まれている柿渋染めを教えていただきました。子どもたちは、地域の方の手作り紙芝居で、柿渋ができるまでの経過を見せていただき、「緑色の柿、初めて見たよ」「柿は、オレンジ色なのに茶色になるのは不思議だな」等と柿渋染めに興味をもつことができました。一人ずつ白い布を柿渋液につけて染めると「わぁ、色が変わった。」ときれいな色に染まったことに驚き、乾かしました。そして、後日柿渋染めをした布に墨汁で絵をかいたり、絵具でスタンプングをしたりして遊びました。



「こども園を飾ろう」では、地域の方を‘お花の先生’として招き、花一本一本を大切にすることや生け方を教えていただき、生け花に興味をもつことができました。花の名前や色、形、においなどにも興味をもつことができました。5歳児は生けた花を園内の好きな場所に飾ることを楽しんだり、作品展でお家の人や地域の人に見てもらおうことを喜んだりする姿がみられました。4歳児も5歳児の生けた花を見て、生けてみたいと地域の方に教えていただき、生け花体験をしました。



地域の方々に様々なことを教えていただいたことは、豊かな体験や学びにつながりました。また、地域の方の優しさに触れ、親しみをもったり、感謝したりする気持ちにつながることとなりました。

## 【今年度のまとめ】

- 地域コーディネーターと連携し、計画的に継続して、地域の方と関わる機会をもつことができました。また、地域の方々の教育力を生かす新しい取組を取り入れたことで、子どもたちは、初めての取組に心を動かし、経験に広がりが見られました。また、優しくしていただいたり、温かい言葉をいつもかけていただいたりすることで人とかかわる楽しさを味わい、認めていただいた言葉は、子どもたちの自信や意欲となり、たくさんのことを教えていただいたことは、感謝の気持ちにつながりました。
- 保護者に園だよりやクラスだより、ホームページ等で取組を知らせたことで、地域の方々の教育力のすばらしさや地域のよさを知っていただき、興味をもつきっかけとなりました。

## 【来年度に向けて】

地域の教育力を活かした保育内容を工夫し、カリキュラムに取り入れ、地域の方々の意見も取り入れながら地域の特色を生かした“地域とともにあるこども園”を目指し、園運営をすすめていきたいと考えます。また、子どもたちが地域に温かく見守られていることを保護者にも理解してもらえるように、情報発信の方法を工夫し、積み重ねていきたいと思ひます。